

## イザヤ書44章24節－46章 「他にいない神」

### 1A 望まれるままを行なわれる方 44:24－45:8

1B 主の僕たちの言葉 24－28

2B 名を呼ばれる神 1－8

### 2A 神の正義と力 45:9－25

1B 抗議する者たち 9－13

2B ご自分を隠される方 14－19

3B 全ての者のひれ伏し 20－25

### 3A 昔に終わりを告げられる方 46

1B 運ばれる方 1－4

2B 近づいている勝利 5－13

## 本文

イザヤ書 44 章を開いてください、24 節から読みます。主の言葉はますます、大胆になっていきます。主はイスラエルの民に対して、「わたしはあなたを造った。」と宣言されました。イスラエルという民、その国を神が形造られました。そして、主は、「わたしはあなたを贖った」と宣言してくださいました。「22 わたしは、あなたのそむきの罪を雲のように、あなたの罪をかすみのようにぬぐい去った。わたしに帰れ。わたしは、あなたを贖ったからだ。」すばらしい、深い安堵をもたらす慰めの言葉ですね。すべての罪を赦してくださいました。主はすでに私たちに責めることを、ご自身でやめてしまわれました。そして、「わたしに帰れ」と命じられておられます。バビロンという異教の神々に取り囲まれている中で、自分自身が主なる神以外のもので自分を満たそうとしている中で、主はご自分の慈愛によって、彼らをご自身に引き戻そうとされています。

### 1A 望まれるままを行なわれる方 44:24－45:8

そして 44 章 24 節から 46 章に至るまで、主がとてつもない預言の言葉を与られます。あまりにもスケールが大きく、途方もない救いを神はイスラエルに下します。そのことを通して、「わたしの他に、神はない」と宣言なさいます。

#### 1B 主の僕たちの言葉 24－28

44:24 あなたを贖い、あなたを母の胎内にいる時から形造った方、主はこう仰せられる。「わたしは万物を造った主だ。わたしはひとりで天を張り延ばし、ただ、わたしだけで、地を押し広げた。44:25 わたしは自慢する者らのしるしを破り、占い師を狂わせ、知恵ある者を退けて、その知識を愚かにする。44:26 わたしは、わたしのしもべのことばを成就させ、わたしの使者たちの計画を成し遂げさせる。エルサレムに向かつては、『人が住むようになる。』と言い、ユダの町々に向かつては、『町々は再建され、その廃墟はわたしが復興させる。』と言う。44:27 淵に向かつては、『干上

がれ。わたしはおまえの川々をからす。』と言う。44:28 わたしはクロスに向かっては、『わたしの牧者、わたしの望む事をみな成し遂げる。』と言う。エルサレムに向かっては、『再建される。神殿は、その基が据えられる。』と言う。」

イスラエルを造られ、またこの天地を造られた神は、ご自分の僕たち、使者たちの言葉によって語られます。バビロンには、天体をうらなう占い師や、その他の知者たちがいました。しかし、それらのものが愚かになるような形で、主はご自分の言葉をその通りに行われます。キリストについての言葉、十字架についての言葉もその通りです。パウロはこう言いました。「知者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の議論家はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のこぼの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。(1コリント 1:20-21)」

主が語られたのは、「エルサレムに向かっては、『人が住むようになる。』と言い、ユダの町々に向かっては、『町々は再建され、その廃墟はわたしが復興させる。』と言う。」というものです。とてつもない大きな都バビロンによってユダヤ人が捕え移されても、主はこの町を再建させると宣言しておられます。そして、そのことを行なうのがペルシヤ人クロスです。27 節の「淵に向かっては、『干上げられ。わたしはおまえの川々をからす。』」というのは、要塞化されて、どんなことをしても倒すことのできない無敵の町バビロンが、その城壁が破壊されるまでもなく、一夜にして陥落した時に、クロスが城内に侵入した時の方法を物語っています。彼は、バビロンの中を流れているユーフラテス川を、地面を掘らせて支流を作ることによって侵入を可能にしたのです。その水かさを減らして、その水門の下をくぐって中に入ることに成功しました。

そして驚くことは、「クロス」という名を呼んでおられることです。イザヤがこの預言をしたのは、晩年、紀元前 690 年前後ではなかったのかと言われています。そしてクロスがバビロンに侵入したのが、539 年です。したがって、150 年前にこの出来事を預言し、その王の名前までを語られたのです。もちろんクロス自身まで生まれていない時です。しかも主は、クロスを「牧者」とまで呼ばれています。なぜか？彼は、バビロンから解放されたユダヤ人を何と、エルサレムに帰還させるだけでなく、ヤハウエのための神殿を建てなさいと命じるからです。そして神殿再建の資金を、王国の金庫から出すという、破格な手当てでした。彼らが主にあって建て上げられるように導いているのですから、「牧者」と呼ばれています。

## 2B 名を呼ばれる神 1-8

45:1 主は、油そそがれた者クロスに、こう仰せられた。「わたしは彼の右手を握り、彼の前に諸国を下らせ、王たちの腰の帯を解き、彼の前にとびらを開いて、その門を閉じさせないようにする。  
45:2 わたしはあなたの前に進んで、険しい地を平らにし、青銅のとびらを打ち砕き、鉄のかんぬきをへし折る。  
45:3 わたしは秘められている財宝と、ひそかな所の隠された宝をあなたに与える。

それは、わたしが主であり、あなたの名を呼ぶ者、イスラエルの神であることをあなたが知るためだ。

主は、クロスをなんと「油注がれた者」と呼ばれます。これはまさに、ヘブル語で「メシヤ」、救世主のことです。主は、この世の王を倒すことによって、ご自分の民を解放する存在としてクロスを選ばれました。それは、ご自身の選ばれたキリストを予表するものでした。

クロスは、紀元前 600 年頃にアンシャンという小国の王の息子として生まれました。その頃、アンシャンはメディアの属国となっていました。けれども彼は 552 年メディアに反乱を起こして、メディアを併合します。それから、不死身の一万人と呼ばれた軍団を率いて、小アジアのリディア王国に攻め込みました。そして 540 年には、シュシャンを陥落させ、エラム国も倒れました。かろうじて南の大国エジプトはその一部を奪われましたが、それ以外は今のイランからトルコ、ギリシヤの一部、エジプトの一部まで含む空前の大帝国となりました。それがメディア・ペルシヤ帝国です。今のイラン人はクロスが自分たちの建国の父と仰いでいます。先ほどクロスのことを牧者と主と呼ばれましたが、興味深いことにダビデと同じように、羊飼いを若い時にはやっていました。主は、この人物を用いられて、ユダヤ人を救う計画を立てておられたのです。

ですから、「わたしは彼の右手を握り、彼の前に諸国を下らせ」とあります。そして、「王たちの腰の帯を解き、彼の前にとびらを開いて、その門を閉じさせないようにする。」と言っています。これが、バビロンを一夜にして陥落させたその歴史的な大事件を預言しているものです。ギリシヤ人のヘロドトスが「歴史」という書物の中で記しています。当時のバビロンの町は、高さ 90 メートル、幅 24 メートルの城壁に取り囲まれていました。城壁の上を、戦車が六列並んで走ることができということです。その周囲は 65 キロにも及びます。先ほど申し上げたように、その真ん中をユーフラテス川が流れていました。そして、純青銅の 100 もの門があり、250 もの見張り塔がありました。だから侵入しようとしたら矢が飛んでくるのですが、地下を掘ろうとしても、その城壁は地下 11 メートルまでも深く掘られていたと言われます。ですから、難攻不落の城と言われていました。それから、バビロンに暮らす全住民の 20 年分の食糧の備蓄があったと言われますから、包囲するにも包囲しているほうが疲弊して戦うことができなかつたでしょう。

しかし、「王たちの腰の帯を解き」とあります。このことを克明に記しているのは、当時、バビロンにいたダニエルです。ダニエル書 5 章で、この無敵艦隊のような町バビロンで、宴会の乱痴気騒ぎをしていたのが、最後の王となるベルシャツアルです。彼は何と、エルサレムの神殿から取ってきた金や銀の器でぶどう酒を飲み、自分たちのバビロンの神々を賛美しました。その時です、「すると突然、人間の手の指が現われ、王の宮殿の塗り壁の、燭台の向こう側の所に物を書いた。(5:5)」とあります。それで、「王の顔色は変わり、それにおびえて、腰の関節がゆるみ、ひざはがたがたに震えた。(6 節)」とあります。王たちの腰の帯を解くとは、彼の力を無くすという意味ですが、ベルシャツアルの場合は文字通りにも起こりました。そして先ほど、占い師や知者を愚かなも

のにするとありましたが、ベルシャツアルは呪文師、カルデヤ人、星占いたちを連れてこの文字を呼びましたが、全く役に立ちませんでした。それで主のしもべであるダニエルが、彼に対してバビロンの治世が終わることを告げたのです。

ところで、先に話しましたように、メディア・ペルシヤの連合軍は水かさを少なくすることによって、柵をぐって城内に入ったと言われています。けれども、その川には防波堤ならず、城壁が内部にもあります。舟が航行しており、一つの橋しか向こうに行けません。その橋の向こうは頑丈な鉄と青銅の扉があります。ところが、です。門番が酔いつぶれて、扉にかんぬきをしていなかったというのです。1節、2節に書かれていることがその通りになりました。このことを、主はイザヤに取って約150年前に語っておられたのです。そして3節、クロスはバビロンの財宝を見つけて、彼に与えられたのでしょう。そして、これらのことが主によってなされたことをクロス自身がはっきりと知るために、予めクロスの名を告げられたのです。ヨセフスの「ユダヤ古代誌」には、クロスに対してダニエルがイザヤ書を見せて、確かに、これが主が行なわせたことをクロス自身が知ることになったことが書かれています。

45:4 わたしのしもべヤコブ、わたしが選んだイスラエルのために、わたしはあなたをあなたの名で呼ぶ。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに肩書を与える。45:5 わたしが主である。ほかにはいない。わたしのほかに神はいない。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに力を帯びさせる。

驚くべきことは、クロスはイスラエルの神、主を信じる信仰者ではなかったということでした。彼はゾロアスター教という宗教を信じていて、多神教者でありました。それで主なる神は、「あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに肩書を与える。」と言われているのです。クロス自身が、ヨセフスが記録したようにこのことを悟ったようです。それで、歴代誌第二の最後とエズラ記に初めに、確かにヤハウェなる方が、このことをしると命じていると言って、ユダヤ人にこのように布告を出しています。「エズラ 1:2-4 ペルシヤの王クロスは言う。『天の神、主は、地のすべての王国を私に賜わった。この方はユダにあるエルサレムに、ご自分のために宮を建てることを私にゆだねられた。あなたがた、すべて主の民に属する者はだれでも、その神がその者とともにおられるように。その者はユダにあるエルサレムに上り、イスラエルの神、主の宮を建てるようにせよ。この方はエルサレムにおられる神である。残る者はみな、その者を援助するようにせよ。どこに寄留しているにしても、その所から、その土地の人々が、エルサレムにある神の宮のために進んでささげるささげ物のほか、銀、金、財貨、家畜をもって援助せよ。』」

45:6 それは、日の上の方からも、西からも、わたしのほかには、だれもないことを、人々が知るためだ。わたしが主である。ほかにはいない。45:7 わたしは光を造り出し、やみを創造し、平和をつくり、わざわいを創造する。わたしは主、これらすべてを造る者。」

主は、すべてにおいて、彼らがたとえ異教徒たちであっても、すべてにおいて主であることを明らかにされています。ここで、「闇を創造する」「災いを創造する」という言葉を主は使っておられます。ここはとても重要です。ゾロアスター教においては、光と闇、善と悪の二元論を信じていて、その対立の中で世界が造られていると考えられていました。しかし、主はひとりなのです。神が二人いるのではなく、悪に対しても主であられるというのが、ここでお語りになりたいことです。

もちろん、悪はサタンが高慢になったことによって始まったことであり、罪はアダムが犯したから世界に入ってきました。神が引き起こしていることではありません。ヤコブは、こう言っています。「1:17 すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。」しかし、では悪に対して神はどのようにお考えになっているのか？ご自分が関与されないで、そのままにされているのか？それとも、ご自分が無力なので、そのような悪に対して対処することができないのか？そのどちらでもありません。

神は、はっきりとした目的があります。三つあります。一つは、その善なる意図をもって、私たちの思いをはるかに超えた形で、悪をも含めてすべてのことを動かしておられるという事実です。このことを通して、神ご自身が主であること、自分たちが救うのではなく、救い主は神のみであることを知らせるのです。もう一つは、神はその悪をも積極的に用いられて、ご自分の栄光に帰するという大逆転、勝利をもたらしてくださいます。そして三つ目に、神は悪に満ちた世にいる現実の中に入ってきてくださり、その悪と付き合ってくださいます。ですから悪をも創造された、というのは酷い言葉ではなく、むしろ慰めを受ける言葉であります。しかし、私たち人間は二元論にすぐに陥ります。信仰者でさえそうです。自分でこれは悪だと決めつけたものについては、その悪人だと思っている彼が実は神によって、何か分からないけれども神ご自身の深い思いがあって、立てられているということを見逃しているのです。

45:8「天よ。上から、したたらせよ。雲よ。正義を降らせよ。地よ。開いて救いを実らせよ。正義も共に芽生えさせよ。わたしは主、わたしがこれを創造した。」

天から雨が滴り落ちるように、神から一方的に正義が与えられて、それから救いを実らせます。ここが大事です。一方的な神の恵みと、神の創造の働きや恵みは密接につながっています。主が事を行われ、人々はそれに応答します。主が良くしてください、私たちはそれを受け取り、感謝し、主に捧げるのです。主から全てが始まり、私たちが応答します。この天からの恵みのような正義と救いを、私たちはしっかりと受け取っているでしょうか？信仰による義というのは、こういうものです。義というのは、一方的に与えられるもの、賜物だということです。自分の力や知恵で作出すものではないのです。主が恵みによって人々を義人が受けるのにふさわしい祝福を与えられます。その本人たちが義に全くかなっていないなくてもそうなのです。

そして、この恵みの原理を、クロスを通して働かせて、異教徒の王をもってして、メシヤの働きをさせるという神の思し召しであります。

## **2A 神の正義と力 45:9-25**

### **1B 抗議する者たち 9-13**

45:9 ああ。陶器が陶器を作る者に抗議するように自分を造った者に抗議する者。粘土は、形造る者に、「何を作るのか。」とか、「あなたの作った物には、手がついていない。」などと言うであろうか。45:10 ああ。自分の父に「なぜ、子どもを生むのか。」と言い、母に「なぜ、産みの苦しみをするのか。」と言う者。45:11 イスラエルの聖なる方、これを形造った方、主はこう仰せられる。「これから起こる事を、わたしに尋ねようとするのか。わたしの子らについて、わたしの手で造ったものについて、わたしに命じるのか。45:12 このわたしが地を造り、その上に人間を創造した。わたしはわたしの手で天を引き延べ、その万象に命じた。45:13 わたしは勝利のうちに彼を奮い立たせ、彼の道をみな、平らにする。彼はわたしの町を建て、わたしの捕囚の民を解放する。代価を払ってでもなく、わいろによってでもない。」と万軍の主は仰せられる。

ここでは、ペルシヤという超大国クロスによってユダヤ人を解放して、エルサレムに帰還させるという神の恵みの計画に、不満を鳴らしているユダヤ人たちの心に対する神の言葉です。ユダヤ人にとっては、まずもってダビデ家によるユダヤ人の王の国が御心であると思っていました。しかし、それを彼らが保持しようとして、ますますバビロンによって虐げられました。エレミヤが、バビロンには服しなさい、主が七十年後に良い計画を持っておられる、と話していました。けれども、その御心に服することなく、自分たちの独立に固執したのです。けれども今、ペルシヤ人の異教徒クロスを神が立てた、ということです。それから、たとえエルサレムに戻ってもそこは未だペルシヤの支配下にあります。それでは、ダビデの末裔による国ではないではないか、という訴えを彼らはしているわけです。

もちろん、いろいろな不足はあるでしょう。しかし、元はと言えば、彼らの先祖が罪を犯したから、また自分たちも主に仕えていなかったから起こっていることです。しかし、主はその不完全な中においても、なおのことご自分の望まれる良い御心を行われようとしているのです。神は、不完全な中で完全なことを行なわれる方です。自分たちに多くの不足があっても、周りの環境が悪くなくても、それでもご自分のことを行なわれる恵み深い方です。

この時に必要な教えは、「神が造り主であり、主権者である」ということです。ここにあるように、すべてが主から来ているということに服することなく、「こうであるべきなのに」と不満を鳴らしているのは、陶器師に対して陶器が文句を言っているような状態、子供が親に文句を言っている状態であります。神が主権をもっており、神が望まれるままに事を行なわれることを、私たち造られた者たちはそれに服するべきなのです。そしてその服従は、とても良いことなのです。主は恵みをもって主権を持っておられます。主は私たちが考えることをはるかに超えて、良い事を行なっておら

れます。

## 2B ご自分を隠される方 14-19

45:14 主はこう仰せられる。「エジプトの産物と、クシュの商品、それに背の高いセバ人も、あなたのところにやって来て、あなたのものとなる。彼らは鎖につながれて、あなたに従って来、あなたにひれ伏して、あなたに祈って言う。『神はただあなたのところにだけおられ、ほかにはなく、ほかに神々はいない。』」

主は、不完全な中に恵みをもって働かれますが、もちろん完全な状態を放棄されたものではありません。主は、ご自分の救いのご計画を完成する時を定めておられます。その救いとは、イスラエルを神が選ばれて、イスラエルによって世界の国々が主の前にひれ伏すということです。今、ここにエジプトが出て来ています。クシュはエチオピアのことです。そしてセバ人とは、シエバにいる人々で、アラビア半島の南、イエメンの辺りにいる人々です。彼らは、産物、商品、また背の高さなどの力と誇りを持っています。しかし、それらをもってイスラエルのところにひれ伏すようにして近づき、主なる神をあがめる時が来ます。主イエス・キリストが再臨し、回復したイスラエルに対して世界の諸国がこのように動きます。

ですから、こう考えるのです。例えば、日本国はキリスト教の国ではありません。世俗の国であり、また仏教と神道を宗教的背景に持っている国です。皇族もおられますが、彼らはキリスト者ではなく、総理大臣もキリスト者ではありません。けれども、主が立てられています。その高い地位にいる人々を立てたのは神ご自身であり、神は恵みの働きをこの国で行われるのです(1テモテ 2:1-4)。しかし、主は終わりの日にこの国をも主の前に立たせます。そして、日本はエルサレムに住まわれる主に対して、ここにある資源をもって主の前にひれ伏すのです。日本で誇るべきものは何でしょうか？お米だとします。主に対して米をもってひれ伏すかもしれません。それは国の指導者だけではなく、自分の周りにある人々かもしれません。その人たちを神は立てられます。たとえ、その人が神を知らなくても、であります。その中で神は恵みの原理で動いてくださるのです。しかし、神はご自分の救いを完成する姿を放棄されません、必ず成就してくださいます。

45:15 イスラエルの神、救い主よ。まことに、あなたはご自身を隠す神。45:16 偶像を細工する者どもはみな、恥を見、みな共に、はずかしめを受け、恥の中に去る。45:17 イスラエルは主によって救われ、永遠の救いにはいる。あなたがたは恥を見ることなく、いつまでも、はずかしめを受けることがない。

とても不思議な言葉が出てきました、「あなたはご自身を隠す神」とのことです。これはどういうことか？主は、イスラエル、また、イスラエルの神を信じる異邦人を、永遠の救いの中に入れてくださいますが、その過程というのは、私たちの思いをはるかに超えたところにあり、私たちにはあたかも隠されているかのように見えることです。しっかりと信仰をもって、主がなされることが自分は

その時は悟ることができないけれども、それでも主が何かを行なっておられると信じるならば、たとえ隠されているように見えても、いつか見えるようにされます。しかし、16 節にあるように、そうではなく自分の思い、自分の願いを優先させると、それは偶像を細工することになります。自分勝手な思いを神として投影するのが、偶像です。

その結果ははっきりとしています。恥を見るか、そうでないかの違いです。聖書では、「恥」という言葉が「失望」と絡めて使われていることが多いです。つまり、期待して信じていたけれども、そのようにならず面目を潰す、というような時の恥です。エルサレムからエマオに行った二人の弟子、彼らはイエス様がイスラエルを贖いと思っていたのに十字架に付けられたとして失望しましたが、あれが恥を受けている状態です。しかし、もちろん二人の弟子の場合は復活のキリストによって、恥を見ることはありませんでした。同じように、

45:18 天を創造した方、すなわち神、地を形造り、これを仕上げた方、すなわちこれを堅く立てられた方、これを形のないものに創造せず、人の住みかに、これを形造られた方、まことに、この主がこう仰せられる。「わたしが主である。ほかにはいない。45:19 わたしは隠れた所、やみの地にある場所では語らなかった。ヤコブの子らに『むなしくわたしを尋ね求めよ。』とも言わなかった。わたしは主、正義を語り、公正を告げる者。

主はここで、イスラエルに対して励ましておられます。主がなされていることは、主ご自身が隠しておられるように見えるかもしれませんが。事実、偶像を礼拝している者、心をかたくなにしている者たちには、神はご自身を隠されます。

しかし、神ははっきりと、ご自分が何をなされるかは、ご自分の僕、使者たちを通して語ってくださっています。そして、ここで大事なものは、主が形のないものではなく、形あるものとして世界を造られたということです。一日目の前は、混沌としていた、新改訳第三版は「茫漠」という言葉が使われますが、しかし、そこに「光あれ」と言われて、光ができました。次に海と空を分けてくださり、海をさらに陸と分けられ、空に光る物を、そして海と空にうごめくものを、さらに肉に生き物を、動物と人間に造られました。形あるものに造られたのです。私たちにとっては、神が何を行なわれているのか、その過程が混沌としているように見えるかもしれませんが。しかし、主は形あるものを造られる方ですから、混沌や混乱のままに決して置いておかれる方ではありません。主は約束されたことを、必ず果たされます。

### 3B 全ての者のひれ伏し 20-25

45:20 諸国からの逃亡者たちよ。集まって来て、共に近づけ。木の偶像をになう者、救えもしない神に祈る者らは、何も知らない。45:21 告げよ。証拠を出せ。共に相談せよ。だれが、これを昔から聞かせ、以前からこれを告げたのか。わたし、主ではなかったか。わたしのほかに神はいない。正義の神、救い主、わたしをおいてほかにはいない。

主はイスラエルから、諸国の民に語られています。「諸国からの逃亡者たちよ。」というのは、ペルシヤによって追い立てられた国民のことでしょう。ユダヤ人が解放されて、エルサレムに帰還させた同じクロスは、これらの住民は追い立てました。彼らこそが、その違いを体験した人々です。その彼らを集めて、「わたしが、初めから語つただろう。お前たちの神々は語つたか？わたしだけが、神なのだ。」と宣言しておられます。150年も前に、主は語られました。同じように、イエス・キリストは何百もの預言によって、前もって語られました。仏陀がまえもって語られたでしょうか？ムハンマドは？イエスのみが初めから語られていたのです。

45:22 地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て救われよ。わたしが神である。ほかにはいない。

主は、クロスに関わった諸国の民に語られた後に、全世界のすべての者に対して、ご自分の救いを与えようとしておられます。ここに、とてもシンプルな救いの招きがあります。「わたしを仰ぎ見て救われよ。」であります。仰ぎ見ることによって、ただそれだけで救われるのです。これだけ福音は恵み深いのです。多くの人々は、主なる神以外のものを見ています。主が造られ、主が贖われ、主がご自分の望まれるままを行われ、この方が神です。ですから、パウロがアテネの人々に言ったように、「私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。(使徒 17:28)」であります。それをある人々は、自分の周りを見たままで救われません。あるいは、自分自身に絶望しますが、主ご自身を仰ぎ見ません。主から目を背けているのです。

しかし、主はただ仰ぎ見なさい、と招いておられるのです。青銅の蛇の話思い出します。イスラエルの民が、水がない、パンもないといって荒野で不平を鳴らしました。そこで燃える火を主が送り、多くの民にかみつぎ、死んでいきました。しかし、民は「私たちは罪を犯しました。」と告白します。主はモーセに「青銅の蛇を造り、旗竿にかけなさい。」と言いました。噛まれた者も、それを仰ぎ見れば、生きると言われました。それで彼らは仰ぎ見て、生きたのです。(民数 21:4-9) イエス様がこの箇所をニコデモに語られて、そして言われました。「それは、信じる者はみな、人の子にあって、永遠のいのちを持つためです。(ヨハネ 3:15)」青銅の蛇は人の罪のために十字架に付けられたキリストを表していました。この方が自分のために死んでくださったこと、これを仰ぎ見ればよいのです。そうしたら救われます。

45:23 わたしは自分にかけて誓った。わたしの口から出ることばは正しく、取り消すことはできない。すべてのひざはわたしに向かってかがみ、すべての舌は誓い、45:24 わたしについて、『ただ、主にだけ、正義と力がある。』と言う。主に向かっていきりたつ者はみな、主のもとに来て恥じ入る。  
45:25 イスラエルの子孫はみな、主によって義とされ、誇る。」

主は救いの招きをしてから、今度は全ての人々が文句なしに、「主にだけ、正義と力がある。」とひれ伏して誓わなければいけないと言われています。主を仰ぎ見て、救われる人は、この方のことを

もちろん認めて、ひれ伏します。けれども、拒む者たちがいます。彼らもひれ伏すのでしょうか？その通りです。聖書では、最後の審判があると教えています。その時には、信者だけでなく、不信者もハデスから、海から出されることが書かれています。そして、白い大きな御座において、主が行かないの書にしたがって、各人を裁きます。そして、燃える火の池に投げ込まれるのです。信じた者は、命を受けるために甦ります。しかし、信じなかった者は滅ぼされるために甦ります。「ダニエル 12:2 地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者が目をさます。ある者は永遠のいのちに、ある者はそしりと永遠の忌みに。」

使徒パウロは、これは、「イエスが主である」という告白であることを話しました。「ピリピ 2:10-11 それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、「イエス・キリストは主である。」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」この告白は、今、主を仰ぎ見る者、主が救われると信じる者には、救われるための告白であります。しかし、そうではない者たちは、最後の審判においてそう認めなければいけないこととして、けれども救われるためではなく、滅びるための告白となります。ですから、本文に戻りますと 25 節に、「イスラエルの子孫は、主によって義とされる」とあります。義は主から来るもので、主ご自身が賜物として与えられる義であり、私たちの義は主の前で不潔な着物のようなものなのです。

### **3A 昔に終わりを告げられる方 46**

そして主は、注目をペルシヤのクロスから、倒されるバビロンに移されます。46 章と 47 章でバビロンに対する裁きを語られます。(本日は 46 章まで読みます。)

#### **1B 運ばれる方 1-4**

46:1 「ベルはひざまずき、ネボはかがむ。彼らの偶像は獣と家畜に載せられ、あなたがたの運ぶものは荷物となり、疲れた獣の重荷となる。46:2 彼らは共にかがみ、ひざまずく。彼らは重荷を解くこともできず、彼ら自身もとりことなっていく。46:3 わたしに聞け、ヤコブの家と、イスラエルの家のすべての残りの者よ。胎内にいる時からになわれており、生まれる前から運ばれた者よ。46:4 あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。あなたがたがしらがになっても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。なお、わたしは運ぼう。わたしは背負って、救い出そう。

午前礼拝でこの箇所を読みました。ユダヤ人は、バビロンに捕囚の民として暮らしている、150 年後の彼らに主は語られています。バビロンの中に生きて、ベルやネボのような神に囲まれて彼らは生きていました。そして、バビロンの力は絶大でした。そこに暮らしている彼らも、その影響を受けていました。約束の神が自分たちを顧みておられない。今、目の前にあるこれらの神々、安住している彼らに調和して、歩調を合わせて生きていけばよいのだと思ったことでしょうか。しかし、主は明らかに、「彼らの拠り頼んでいるものの行き着くところは、重荷であり、束縛だ。」と教えられています。自分たちで運ぶ生活です。

しかし、彼らは感じていなかったけれども、主はその中でも彼らを運んでいてくださっていたのです。彼らは初めの出エジプトにおいてはそうであったかもしれないけれども、今は自分たちでやっていかなければいけないのではないかと、思ったかもしれません。しかし、主は、「いいや、初めに背負っていたのだから、わたしはあなたがたがずっと後になってもそれで背負うのだ。」と言われるのです。事実、出エジプトの時、430年後にエジプトから出てきたように、彼らは70年後にバビロンから出ていくことができます。私たちは、その渦中はそのように感じないかもしれません。自分が運んでいるように感じることもあるでしょう。しかし、そのような時こそ主が運んでいてくださっています。

## 2B 近づいている勝利 5-13

46:5 わたしをだれになぞらえて比べ、わたしをだれと並べて、なぞらえるのか。46:6 袋から金を惜しげなく出し、銀をてんびんで量る者たちは、金細工人を雇って、それで神を造り、これにひざまずいて、すぐ拝む。46:7 彼らはこれを肩にかついで運び、下に置いて立たせる。これはその場からもう動けない。これに叫んでも答えず、悩みから救ってもくれない。

主は、偶像に固執する、バビロンに囚われの身の彼らに対して、語りかけておられます。偶像の問題は一言、「わたしをだれになぞらえて比べ、わたしをだれと並べて、なぞらえるのか。」であります。これまで聞いてきたように、主のなされることはあまりにも偉大で、私たちの思いをはるかに超えています。しかし、主は私たちでは悟ることができていない時でさえ、運んで、背負ってくださっています。けれども、偶像は、「私が、これが神だとなぞらえるものにするのだ。」と言って、自分の思い願うことを優先させることです。そして、そのために惜しげもなくお金を捧げます。それが、いざという時に救い出してくれるのでしょうか？使徒ヨハネは、第一の手紙を「子どもたちよ。偶像を警戒しなさい。(5:21)」という言葉で終えています。キリスト者であっても、偶像礼拝に陥る危険があるのです。これが正しい、私はこうだと思わない、というような、神の主権に服さず、自分を優先させる時に偶像を心に造っています。そして、「全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。(19節)」とも言っており、悪い時代だからこそ、偶像を造り易いのです。

46:8 このことを思い出し、しっかりせよ。そむく者らよ。心に思い返せ。46:9 遠い大昔の事を思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。46:10 わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる。』と言う。46:11 わたしは、東から猛禽を、遠い地から、わたしのはかりごとを行なう者を呼ぶ。わたしが語ると、すぐそれを行ない、わたしが計ると、すぐそれをする。

主は、「思い返せ」と命じておられます。それはイスラエルの民に、大昔、すなわちアブラハム、イサク、ヤコブの時代に神が現われてくださり、約束を与えられました。そしてその約束の通りに、イスラエルの国民を造ってくださいました。主は、その祝福と光栄の姿を終わりの日に完成されます。したがって、主は初めの時から終わりのことを告げられる方なのです。創世記 12 章にアブラハム

に対して、「地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。(創世 12:3)」と言われた方は、それがキリストにあって終わりの日に実現することを前もって言われていたのです。そして、同じように「東からの猛禽」すなわち、クロス王が現われるということ、初めから語っておられます。

主は初めに私たちに語ってくださいます。終わりの完成を含めて語ってくださいます。「2コリント 5:17 だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」すべてが新しくなるという言葉は、黙示録の最後、新しいエルサレムに出てくる言葉です。私が新しく造られたということは、既に終わりの日にすべてを新しくすると主がお決めになっていることを開始されて、前もって私たちに救ってくださったということです。ですから、主は私たちがキリストの似姿にすると初めにお決めになって、それで私たちを呼ばれています。「ローマ 8:30 神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。」

46:12 わたしに聞け。強情な者、正義から遠ざかっている者たちよ。46:13 わたしは、わたしの勝利を近づける。それは遠くはない。わたしの救いは遅れることがない。わたしはシオンに救いを与え、イスラエルにわたしの光栄を与える。」

主が、終わりの日に向けて初めにお決めになっていたことをあり、それを実行しておられるのですが、私たちはその途中経過を見て、そこで落胆して、目の前にある偶像に目を留めてしまいます。目が、初めから与えられた約束から離れてしまうのです。それがここで言っている、「正義から遠ざかっている者」ということです。主が真実な方で、終わりに完成されることを決められてから、私たちに初めの行ないを与えられたのに、その過程で、すべてのことを働かせて益としてくださる、その神のご計画の中にいることを知らずに、そこから目を離してしまっている状態です。

しかしそれでも主は、救いを近づけてくださっています。主は捕囚の期間を七十年と定めておられて、それが満ちれば将来と希望を与えることを決めておられたのです。同じように、主はご自分の民のため、戻ってきて私たちに救ってくださいます。「ローマ 13:11 あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行ないなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。」捕囚のユダヤ人にとって間もなくバビロンが滅び、そこから救い出されます。同じように、キリスト者にとって間もなくこの世が滅び、私たちはそこから救い出されます。

ですから、私たちは重荷を降ろすべきですね。主がしておられる恵みの働きの中に素直に入っていくべきですね。これまでの自分でやってきたというその重荷を降ろして、むしろ自分を確かに運んでくださったその御手を認めます。そして、主がかつて約束してくださったことを思い出し、それを主はこれまでも変わりなく行なっておられることを知ります。そして主は私たちに間もなく救ってくださるのです。主を見上げてください、救いはこの方から来ます。